

文化・芸術

「壺に菊」

1955（65年）ごろ、紙本彩色
58・3センチ×45・5センチ

安田 鞆彦（ゆきひこ）
（1884～1978年）

染め付けのやきものに生けられた色鮮やかな菊が一輪、描かれています。秋の節句として、旧暦の9月9日に行われる重陽の節句は「菊の節句」ともいわれ、菊は古くから秋を象徴する花として親しまれてきました。

安田鞆彦は、平安時代から描かれてきた大和絵にモダンな感覚を取り入れ、日本や中国の歴史・神話を題材とした歴史画を描いた日本画家です。その一方、花を描くことを愛し、制作の基礎として生涯草花のスケッチを怠らなかったといえます。そして、季節の花々と自身のコレクションした東洋の古陶磁とを組み合わせた静物画も数多く制作しました。

本作では、余分なものをそぎ落とした画面構成が、菊の花の清らかな美しさや気品を際立たせています。また、金泥による線描、葉に用いられた「たらし込み」の技法が画面に装飾的な効果をもたらしています。菊の良い香りが漂うような作品で、鞆彦の洗練された感性と画技の高さをうかがわれます。（佐藤）

名画の扉

大川美術館コレクション展から

